

調査データ概要

▼調査の全体像

- ・有効回答者数:98名
- ・推し活経験あり:57名 / なし:41名

▼推し変に関する内訳

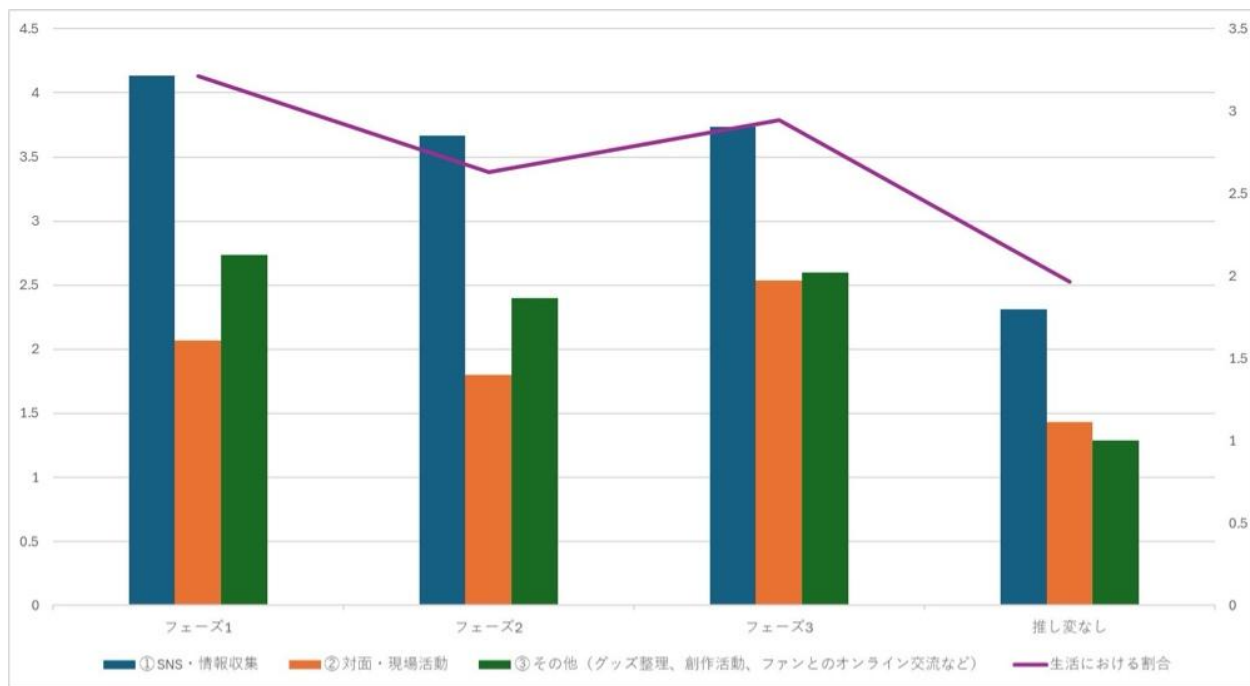
- ・推し変経験あり:24名(うち20名が完答)
- ・推し変なし:31名(全員完答)

分析の目的

- ・推し変経験の有無による「活動量(リソース投入量)」の差を明らかにする。
- ・特に、最も複雑な心理状態にある「フェーズ2(移行・葛藤期)」の行動変容の深掘り。

推し変経験による「熱量」の差異【グラフ】

・推し変経験者は「推し活」へのコミットメントが高い傾向。



・主軸(活動時間): 1=1h未満 / 2=1-3h / 3=3-7h / 4=7-14h / 5=14-21h / 6=それ以上

・二軸(生活の割合): 1=1割未満 / 2=1-3割 / 3=4-6割 / 4=7-9割 / 5=ほぼすべて

・※数値はカテゴリ得点の平均であり、実時間を示すものではない。

推し変経験による「熱量」の差異【結果】

- ・全体傾向

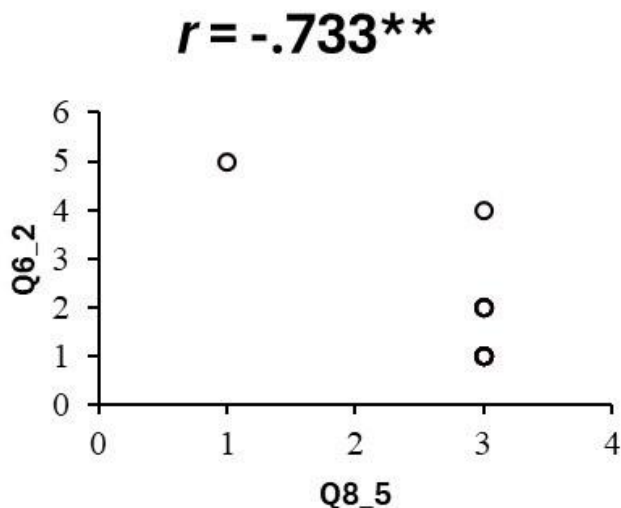
→推し変経験者は、フェーズを問わず「推し変なし」層よりも全項目で活動スコアが高い。

- ・生活における割合

→特にフェーズ1（初期）の生活における推し活の割合は非常に高く、推し変未経験者と顕著な差が出ている。

移行・葛藤期における心理と行動の相関

Q8_5	旧推しのことは嫌いになったわけではなかった	15	2.866667
------	-----------------------	----	----------

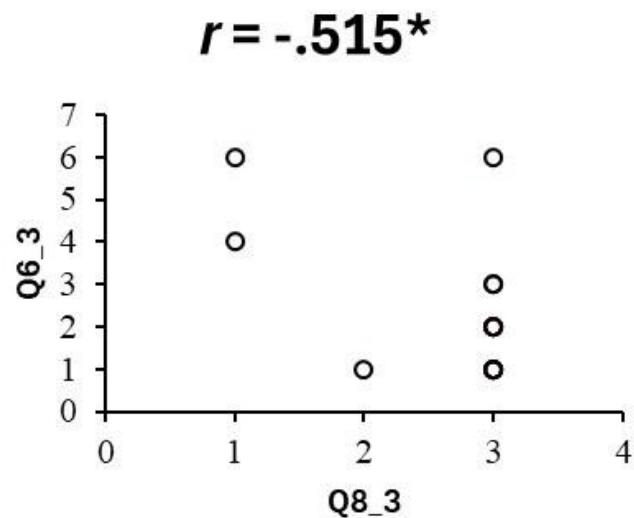


・「旧推しのことは嫌いになったわけではなかった(Q8_5 得点平均2.87)」という心理が、対面活動(Q6_2)を強く抑制している。
→嫌いではないからこそ、新しい現場へ行くことに「後ろめたさ」を感じる？

移行・葛藤期における心理と行動の相関

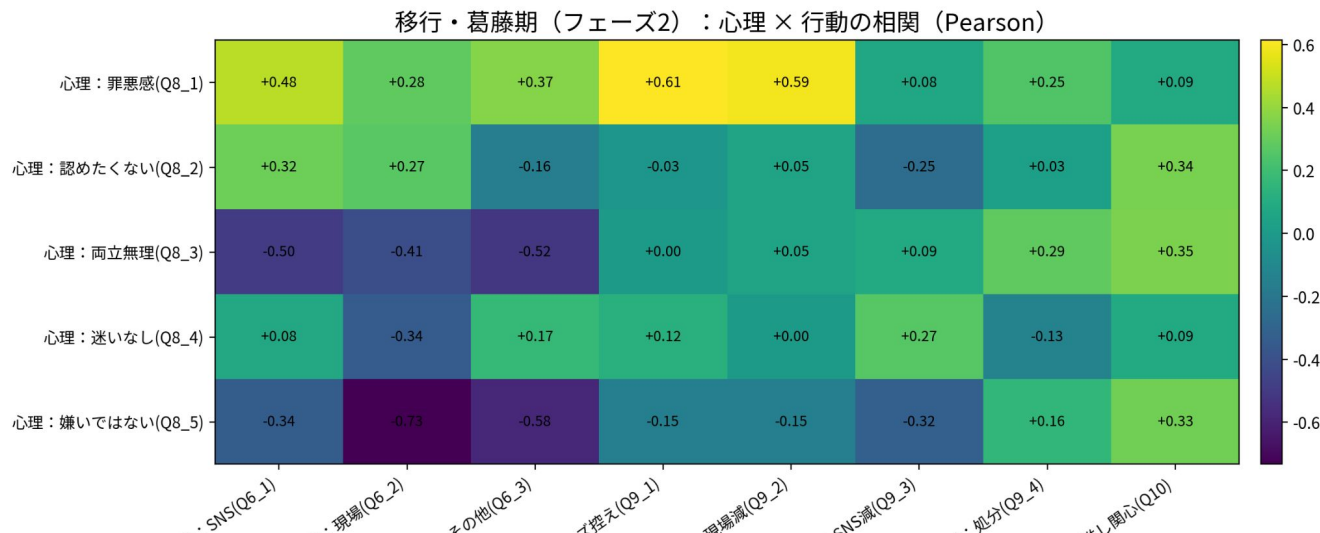
Q8_3 金銭的・時間的に両方を追うのは無理だと感じていた

15 2.666667



移行・葛藤期における心理と行動の相関

- ・心理的要因：「旧推しは嫌いではない(Q8_5 / 平均2.87)」という心理が、現場活動(Q6_2)への強いブレーキ($-.733$)となっている。
- ・物理的要因：「金銭・時間的に両立は無理(Q8_3 / 平均2.67)」と感じるほど、SNSやその他活動への投入量が低下する。



まとめと今後の展望

・結論

1. 推し変層はアクティブ層

→推し変を経験するユーザーは、そもそも推し活に対するエネルギー投入量が多い層である。

2. 葛藤期のケアが重要

→フェーズ2において「両立の無理」や「罪悪感」を抱えやすく、ここが活動量低下の分岐点となる。